

第 2 2 回 記念の噴水



当時小3だった本校児童が事故に遭ったのは1976年12月だった。その時の事を後年1980年6月6日付の「ビルト・ツァイトウング」紙は次のように書いている。

「児童はレヴィットシュトラッセにある集合アパート(300世帯)の地下ガレージの前で一人で遊んでいた。この男の子は日本からデュッセルドルフに来てまだ14日しか経っていなかった。と突然、自動式のガレージ扉が閉まってきた。児童は扉の端とコンクリートの壁の間に押し挟まれてしまった。6か月後、児童は意識が回復することなく死んだ」

小4になっていた彼のお通夜は1977年6月21日に行われた。父親は、家族でお付き合いをしていた知人で工業デザイナーのDieter Witte氏に噴水の設計図を書いて貰い、フィリップ・ホルツマン社に校庭に作って貰って学校に寄贈された。ただこの石造りの壁に貼ってある透明プレートに児童のことが書いてあり、それを読んでこの噴水はお墓だとか記念碑だという誤解が子供たちや親の間で広まったこともあった。噴水の周りで子どもたちが元気に遊ぶことは児童の両親の願いであった。それで長い間、子どもたちは楽しそうに噴水の周りで遊んでいたが、石が崩れ落ちてくるなど、危険な状態になったので、子どもたちの安全を優先して平ら面にし、プレートを埋め込むことにした。

「噴水の撤去」(2025年1月追記)

1977年に設置された噴水は40年以上も経ち、経年と風雨の天候に晒されしばしば故障した。噴水の内部には上から流れて来る水を排除するポンプがあったが、そのポンプが故障すると汚水が噴水の内部にたまりその都度ハウスマイスターは毎回時間をかけて汚水を排出していた。また内部の水はポンプが故障すると汚れて悪臭を放つようにもなった。そのため噴水の周りで遊ぶ子供たちに健康の害になるのではないかという懸念も出てきた。

そうこうしているうちに校内の電気器具、暖房機、遊具等様々な器具を公的に検査するテュフ(TÜV Technischer Überwachungs-Verein 「技術監査協会」ドイツで車検などを行う機関)が校内の遊具や機具を検査した時、噴水も検査され、危険を及ぼす危険性があると指摘された。そのため噴水の周囲を柵で囲って噴水の上に登って転倒する危険を避ける案も出たが、外見の見栄えもよくないという事でこの案は却下された。

ラインラント・テュフによる提案は、噴水を撤去すれば危険のもとになる原因も無くなり、そうすれば故障の修繕費用も無くなるであろうというものであった。こうして学校は TÜV の薦めに従って 2019 年 3 月に噴水を撤去し、噴水の建っていた中心の敷石の上に他界した生徒の記念の石を設置した。



撮影：2025年2月